

## 学校教育目標

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 智と徳を兼備え、社会に貢献できる自立心豊かな近代女性の育成を目指す学校 |
| 2 | 尚絅で学んで良かったと生徒・卒業生・保護者が真に思う学校        |
| 3 | 地域で存在感のある学校                         |

## 重点目標

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 | 特色ある学校づくりによる「尚絅らしさ」の追求          |
| 2 | 基礎学力の涵養と部活動の推進による進路志望の実現        |
| 3 | 掃除・挨拶・礼法等の指導の徹底による豊かな人間性と社会性の育成 |
| 4 | 地域に貢献する開かれた学校づくり                |

## 重点目標に対する自己評価総括

- |   |                  |          |  |
|---|------------------|----------|--|
| 1 | 教育内容の改革と尚絅らしさの追求 | <b>B</b> | 基礎学力の充実において一定の成果を上げていると考えているが、課題も抱えており、引続き改善しながら取り組んでいく。また、人間教育プログラムの充実において、マナー検定に全員合格する等の実績を残すことができたが、今後は日常生活に役立てることのできる指導を目指して取り組んでいく。 |
| 2 | 学習意欲あふれる生徒の確保    | <b>B</b> | 女子教育の長所・強みをアピールするため、在校生主導の体験型オープンスクールを積極的に開催し、参加者からは好評であった。一方で中学校・学習塾の継続訪問を実施し、連携に努めた。期待した受験生増加には至らなかった。                                 |
| 3 | 生徒支援改革           | <b>A</b> | 進路指導の充実・教育相談の充実に努め、生徒支援の強化を図ることができた。また、保護者会を学期毎に開催し、進路後援会・内部進学説明会等を共催することで、保護者と学校の協働体制を強化した。   |
| 4 | 教育指導力の向上         | <b>A</b> | 授業力向上・魅力ある授業推進のために、外部講師を招聘し、研究授業の実施・指導法の研究を行った。また、反省会を実施し、授業力改善に役立てた。その他、外部研修に積極的に参加し、全職員へ報告したが、その実践という面では課題を残している。                      |
| 5 | 地域連携の推進          | <b>A</b> | 外部団体との合同練習会をアリーナ及びグラウンドを利用し、開催することにより、地域交流を深めた。また、ボランティア活動でも、各種ボランティア活動への参加や、校地周辺の清掃活動に積極的に取り組むなど、地域支援を行った。                              |

【評価基準】 A：十分達成(85%以上) B：概ね達成(70%以上) C：やや不十分(50%以上) D：不十分(50%未満)

評価項目	評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題	
教育内容の改革と尚絅らしさの追求	人間教育プログラムの充実	年間計画の策定・実施	教育の柱となる活動を集約し、計画を策定する。	A	各部・各学年で計画に沿って実施し、一定の成果を得た。
		外部組織の積極的活用	専門家の活用により、専門知識を深める。	A	「AED講習」「認知症サポーター講座」等を受講し知識を深めた。
		尚絅塾・礼法教育の推進	フィールドワークを通して授業での学びを深める。	B	各コースで体験実習を行い、学びの意識が高まった。
			学んだ知識や、礼儀作法を日常生活で役立てる。	B	形式だけの「礼儀作法」ではなく、心に届くような指導を目指す。
		各種講演会の開催	講話・講演会を聞き進路実現や将来に役立てる。	A	机上ではよくわからないところまで実習を通して学ばせることができ有効であった。
		図書教育の推進	朝読書を国語読解力の向上の一助とする。	B	授業活用する図書館の利用法は、教科内での討議もでき今後の授業に繋がる。
	基礎学力の充実	魅力ある授業の充実	講師による指導・助言により指導力向上を図る。	B	外部講師を招聘し、研究授業を行い充実した研修となった。
		コース全員参加課外授業	朝課外実施により、基礎学力の向上を図る。	B	生徒の遅刻が減り、学習意欲が高まり、追考査受験生減少の結果を得た。
		尚絅ゼミの推進	個々の進路志望に対応した課外授業の実施。	B	ゼミ実施が、授業の復習や翌日の予習の時間として、自学習慣化の一助となった。
		小論文指導の強化	論理的思考力及び文章表現力を培う。	B	小論文ガイダンス、模試を実施も、指導の徹底に課題が残った。
		自学・自習の習慣化	学習記録帳を活用し、家庭学習を習慣化させる。	B	次年度から本校独自の学習記録帳を作成し、指導の統一化を図る。
	課外活動の活性化と進路の保障	生徒会活動の推進	執行部を中心に学校行事等の企画・運営を推進。	A	文化祭、生徒会選挙など、滞りなく実施できた。
		部活動の推進	人間教育の一環として部活動を奨励する。	A	中高剣道部、高校テニス部、弓道部などが全国大会に出場した。
		実績を活かした進路実現	部活動の実績を活かした進路実現を奨励する。	A	今年度は、生徒・部活顧問・保護者対象の体育進学説明会実施の策定をする。
	国際交流の推進	海外修学旅行の実施	国際交流を推進し、異文化理解を深める。	A	中高一緒にテックワイセカンタリースクールと交流を行い、充実した交流会となった。
		姉妹校定型の推進	姉妹校提携を推進し、国際的理解力を高める。	A	次年度は韓国鶴成女子中学校を訪問して姉妹校提携を行う予定である。
		留学の推進と制度策定	留学における単位修得に関する制度の策定。	B	留学に関する単位の修得については規定の策定には至らず、次年度の課題とする。
		留学生受け入れの推進	英語教育の一助のため、受け入れを積極的に行う。	A	留学生と帰国後も連絡を取りあい、国際感覚向上の一助となった。
		ICC利活用の推進	ICCを開放し、生徒間の情報交換の場とする。	A	一貫3年生が高円宮杯全国中学生英語弁論大会4位の成績を修めた。
		英語検定試験の推進	資格取得を活かした進路の実現を奨励する。	C	各コースの目標を設定し、実施した。
各コースの特色作り	カリキュラムの検討	生徒の実態・進路状況に応じたカリキュラムの作成。	B	27年度総合コース新入生の3年次カリキュラムの一部見直し案の承認を受けた。	
	クラス編成の検討	より教育効果の高い特色あるクラス編成を行う。	A	29年度3年総合コースは、幼教・文系・理系の3クラスとする承認を得た。	
	進路実績の向上	課外や模試実施により、進路実績の向上を図る。	B	学力向上に於ける実施効果の高い取り組みが今後の課題となる。	
中高大連携の推進	特色化・差別化の推進	連携を密にし、生徒の進路決定の一助とする。	B	尚絅大学の協力を得て出前講義・連携授業・大学説明会を実施した。	
	学園内進学制度の改革	内部進学を奨励する。	A	幼児教育科の特別推薦入試に関する提案を大学・高校にて検討した。	
	職員の交流と情報交換	情報交換を行い、生徒の進路決定の一助とする。	B	全職員がそれぞれ、尚絅大学武蔵ヶ丘・九品寺校地を訪問し理解を深めた。	
	学生・生徒と職員の連携	交流を通して総合学園としての意識を高める。	B	高校・大学で「火の国まつり」に出演し、参加した生徒は高大の一体感を得た。	

【評価基準】 A：十分達成(85%以上) B：概ね達成(70%以上) C：やや不十分(50%以上) D：不十分(50%未満)

評価項目		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果及び課題
学習意欲あふれる生徒の確保	広報活動の推進	広報活動の再構築	本校の特色を広報し、受験者・入学者を獲得する。	B	オープンスクールや学校説明会を実施し、アンケート結果より非常に好評であった。
		恒常的な小・中学校訪問	より多くの受験生を得るために、定期訪問を行う。	B	県下中学校へ訪問説明を行った。塾に関しては、訪問回数の頻度が少なかった。
		担当職員のスキルアップ	外部講師による研修により、スキルアップを図る。	B	外部講師による研修により得た知識を実際の訪問で意識することができた。
	女子校の長所・強みを活かした広報	長所・強みの広報徹底	女子校の明るさと楽しさを盛り込む。	A	オープンスクールで生徒主導の企画を実施し、女子校の雰囲気と長所をアピールした。
		県下女子校との連携	他女子校との合同事業を行う。	A	八代白百合学園との壺溪塾講師による合同受講を行った。
	特待制度の活用	特待による生徒の獲得	優秀な生徒を獲得し、本校の牽引者を育成する。	B	広報部・部活動顧問を中心に募集活動を継続して行う。
特待生制度の再検討	費用対効果の観点から、より充実した制度とする。	A	新制度を活用し小・中学校等へ訪問活動を実施した。		
生徒支援改革	進路指導の充実	進路相談の充実	教育相談等により、的確な進路指導を行う。	A	進路ガイダンスを実施し、コース選択・進路選択の指針となった。
		課外授業の充実	課外授業の徹底と結果の検証による内容の充実。	B	学習意欲の向上と追考査受験生の減少及び、遅刻者減少の結果を得た。
		進路情報の収集・提供	進路情報を提供し、進路に対する意識を高める。	A	大手予備校等へ職員を派遣し情報収集に努め、情報を生徒・保護者へ提供した。
	教育相談の充実	個人面接の推進	面談実施により生徒理解を深める。	A	全校生徒対象の個人面談や、家庭訪問を実施し相互理解を深めた。
		カウンセリングの充実	早期受診率の向上と問題の早期解決を図る。	A	問題を抱える生徒の情報共有化のために全職員で研修会を行った。
		外部人的支援の活用	県支援事業を活用し、生徒支援を行う。	A	教師の指導が困難な家庭環境の生徒に対し、県の派遣相談員を活用し支援した。
	奨学金・表彰制度活用・再検討	現行制度の活用・再検討	生徒の支援を行い、就学環境をサポートする。	A	特待生Aに採用された生徒が、九州大学に合格を果たした。
	育友会との連携推進	保護者会の充実	授業参観等により、生徒学校への関心を深める。	A	保護者会と共に授業参観を行い好評であった。次年度も内容検討し継続して行う。
		地区会の内容充実	郡部の保護者・同窓生への学校の現況報告。	A	7地区にて実施し、参加者の評価は概ね良好であった。
		学校行事での連携推進	職員との連携を深め、協力体制を確立する。	A	文化祭・体育祭・尚絅コンサート・金峰山登山に協力を依頼した。
		同窓会・後援会との連携推進	同窓会等への出席推進	学校と同窓会・後援会との協働体制を確立する。	A
	同窓会・後援会との連携推進	学校行事での連携推進	学校との連携を図り、行事の一層の充実を図る。	A	ホームcomingデー・文化祭・体育祭・尚絅コンサート等で協力を得て、充実した催しとなった。
教育指導力の向上	職員研修の推進	授業力の向上	研究授業により、教師の授業力を高める。	B	外部講師招聘による合評会で指導法の研究を行った。
		校内研修の充実	若手育成を目的とした校内研修を行う。	A	若手育成研究会を実施した。若手職員はいずれも熱心な取り組み状況であった。
		外部研修の充実	外部研修を活用し、指導力の向上を目指す。	A	研修会や他校視察研修を行い、研修内容の共有化を図った。
		研修の共有化と実践	研修内容を共有し、共通理解の基に指導する。	C	全職員への報告は実施できたが、復講の実践には至らなかった。
地域連携の推進	地域の諸活動の支援とボランティア活動の推進	合同練習会開催の推進	開催を、地域貢献、広報活動の一助とする。	A	継続して積極的に取り組み、地域貢献と学園の広報活動を推進する。
		生徒・指導者の派遣推進	職員・生徒を派遣し、地域との連携を推進する。	A	体育系部活動生徒を派遣し、任務を果たした。次年度も継続して実施する。
		ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への派遣を推進する。	A	地域文化祭補助員としての参加などを通じ、地域交流を深めた。
		ボランティア活動の推進	校地周辺の清掃活動に積極的に取り組む。	A	九品寺校舎周辺の清掃活動、産業道路沿い花壇に冬花の植栽を行った。
		本校主催の大会開催	地域の諸活動の支援、部活動の活性化を図る。	A	ギターマントリン部がOGと共に第1回「はなさくらコンサート」を実施した。
		尚絅シニア講座の充実	育友会・花桜会対象の公開講座を実施。	A	希望者を対象に募集した。次年度は、様々な分野からの講座を検討する。

■学校生活に関して「生徒」「保護者」にアンケートを実施しました。

○は「よく・ややあてはまる」の肯定的な意見、●は「あまり・全くあてはまらない」の否定的な意見

生徒による評価

尚絅生として

- 1 尚絅に入学して良かった
- 2 友人と仲良く楽しい学校生活を送っている

学校生活や指導について

- 3 学力向上を目指して積極的に取り組んでいる
- 4 クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している
- 5 しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる
- 6 部活動が盛んである
- 7 施設設備が充実している
- 8 掃除など環境美化に取り組んでいる
- 9 先生や来校者に挨拶がきちんとできている

平成27年度

○	●
76%	17%
91%	6%
79%	12%
74%	19%
83%	10%
81%	10%
93%	3%
80%	8%
85%	7%

【生徒による評価】の総括

「尚絅に入学して良かった」と感じている生徒は76%、「友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」と感じている生徒は91%で、前年とほぼ同じであった。「両項目の評価の開きが大きい」という前年度と変わらぬ点をしっかりと分析し、生徒の本校入学に対する満足度が高まるような教職員の更なる努力が求められる。一方で、学力向上・掃除・挨拶の3項目については、昨年度評価が低く、今年度の課題であったが、前年度比10%超上昇しており、取り組みに対する一定の評価が得られたと考えられる。

○の評価が70%台であった項目を次年度の課題と位置づけ、改善に向けて全職員真摯に取り組んでいく。

保護者による評価

尚絅生として

- 1 尚絅に入学させて良かった
- 2 友人と仲良く楽しい学校生活を送っている

学校生活や指導について

- 3 学力向上を目指して積極的に取り組んでいる
- 4 クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している
- 5 しつけ・礼法教育に積極的に取り組んでいる
- 6 部活動が盛んである
- 7 進路指導が適切に行われている
- 8 施設設備が充実している
- 9 掃除など環境美化に取り組んでいる

平成27年度

○	●
89%	7%
94%	4%
83%	13%
83%	14%
89%	7%
79%	14%
73%	16%
97%	2%
86%	6%

【保護者による評価】の総括

「尚絅に入学させて良かった」と感じている保護者が89%、「友人と仲良く楽しい学校生活を送っている」と感じている保護者が94%で、両項目を含めて全体的に昨年度とほぼ同じ結果となり、保護者からは一定の評価を得ていると思われる。しかし、「学力向上を目指して積極的に取り組んでいる」「クラスマッチ・体育祭・文化祭など行事が充実している」「部活動が盛んである」「進路指導が適切に行われている」の4項目で、否定的な回答が2桁の数値であったことは、真摯に受け止め、内容を検討し、保護者の期待に応えられるよう、全職員で取り組んでいかなければならない。

■学校評価委員（保護者の代表・同窓生の代表）に評価をお願いしました。

- 礼法教育の取り組みにより、感じの良い挨拶を受けることが多々あった。継続して指導に取り組んでもらいたい。
- 総合コースも含めた課外授業の取り組みは大変ありがたい。早朝からの指導は大変なことと思うが、学力の向上に向けて今後も取り組んでもらいたい。
- 体育系部活動及び一部の文化系活動の実績が顕著であった。来年度以降、実績が乏しかった他の文化系部活動の頑張り期待したい。
- 部活動等の高大連携が一層推進されれば、内部進学者の増加に繋がるのではないか。

## ■総合評価

## (1) 教育内容の改革と尚絅らしさの追求

尚絅らしさの追及として礼法教育を推進したことでマナー検定において、1年初級・中級、2年中級、3年上級を受験し、全員合格した。また、礼法委員会による挨拶指導、環境保健部による掃除徹底の指導の効果がみられるようになった。基礎学力の確立のために、総合コース1年～3年で始業前の朝課外を実施したところ、生徒の遅刻が減り、学習意欲が高まり追考受験生減の結果を得たが、部活動との両立と一部の生徒に疲労が見られる等の課題が残った。その他、小論文指導の強化策として高校全学年で小論文ガイダンスや模試及び個人指導を行い、進路指導の一助となった。また、部活動においては、昨年度に引き続き各部の健闘が見られた。

## (2) 学習意欲あふれる生徒の確保

今年度の課題とした広報活動の再構築について、今年度初めて、塾・家庭教師対象の説明会を小学生対象、中学生対象に分けて実施したことにより説明会参加者が増加した。また、在校生主導の体験型オープンスクールを中高で3回実施したことに加え、学校説明会を高校で2回、中学校で4回実施したところ、アンケート結果は好評であった。その他、恒常的な小学校・中学校・学習塾への個別訪問活動を推進するため、計画的に全職員で訪問活動を行ったことで、生徒募集に関する職員の意識も少しずつ向上している。

## (3) 生徒支援改革

進路相談の充実を図るため、進路指導部・学年部・担任の連携を強化し進路情報の周知を徹底したほか、各学年・コースで面談及び進路ガイダンスを実施したことにより、コース選択・進路選択の指針となった。また、保護者会は学期ごとに開催し、2学期は進路講演会、3学期は尚絅大学・短期大学部の説明会を同時開催し好評であったが、開催日時と内容、配布物について更なる検討が必要である。生徒のケアのために毎週火曜日にスクールカウンセラーによる相談を実施しているが、4月と9月に問題を抱える生徒の情報共有化のために全職員で研修会を行い、生徒指導の一助とした。

## (4) 教育指導力の向上

授業力向上・魅力ある授業推進のために、外部講師を招き1学期に英・保体、2学期に数学・情報の研究授業を実施し、指導法の研究を行ったほか、各教科で授業研究及び反省会を実施し授業力改善に役立てた。また、教頭主導で学年主任・コース主任を対象にした週1回の定例研修と若手職員を対象にした若手育成研修会を実施したところ、いずれも熱心な取り組み状況であった。

## (5) 地域連携の推進

中高体育系部活動によって、外部の小・中・高校・団体との合同練習会をアリーナ及びグラウンドを活用して年間約80回開催した。また、ボランティア活動を通して奉仕の精神を育成し、地域貢献に資するため、全校生徒に各種ボランティア活動の情報を提供し積極的な参加を促したところ、スペシャルオリムピックス、熊本城マラソン、地域文化祭等に参加するなど、ボランティア活動への意識の向上が見られた。

## ■平成28年度への課題・改善方策

- ①礼法教育は年間計画に則り取り組みがなされた。また掃除の徹底・挨拶についても改善され良い傾向であった。さらに、校内のみならず広く日常生活の場で活用できる礼法を習得させるための指導に留意して、継続して取り組みたい。
- ②課外授業の取り組み等により生徒の修学意欲は高まってきた。基礎学力の一層の充実を図る為に、教師一人ひとりが指導力を高め魅力ある授業を行うために、自己研鑽・研究授業の充実・校外での研修会への積極的な参加と研修内容の共有化等を推進し、さらなる指導力向上に努めなければならない。
- ③多様化する入試に対応できる指導力が必要とされている。小論文・面接試問・英語検定試験・特別活動実績(部活動・生徒会活動・ボランティア活動等)を活用した入試等、各生徒の進路志望に応じた個別指導の為に入試傾向の分析を行い、生徒・保護者への入試情報の提供と年間計画に則った的確な進路指導に取り組まなければならない。
- ④これまで英語科で取り組んできた英語検定試験(GTEC・実用英語技能検定)の結果の一層の向上を図るために、英語科指導者全員による検定結果の分析会を実施し、分析結果を活かした級別指導を徹底すると共に、個別指導による2次試験の面接試験対策を強化する。
- ⑤入試結果を検証して、広報活動全般・入試問題を含めた入試のあり方等の観点から改善策を検討し、全職員の募集活動への意識昂揚を図りながら募集活動に取り組む。また、育友会・同窓会・後援会の各種会合等を活用した広報活動の一層の充実に努める。
- ⑥近年の体育系部活動及び一部の文化系部活動の活躍は顕著である。来年度以降、実績が乏しかった他の文化系部活動の活性化に取り組んでいきたい。
- ⑦熊本城マラソンでのボランティア活動、はなさくらコンサート開催、合同練習会実施等の取り組みは、地域貢献はもとより学園のピーアールにおいても大切な活動であり、継続して取り組みたい。